

当院における AFBF(acetate-free bio-filtration)の使用経験

東邦大学医療センター大橋病院 臨床工学部 腎臓内科 麻酔科

臨床工学部 平尾健、功力未夢、高梨隼一、齋藤拓郎、岡本裕美、日野由香里、加藤文彦
大沢光行、別所郁夫、森下正樹

腎臓内科 林俊秀、田中友里、常喜信彦、長谷弘記

麻酔科 小竹良文

【はじめに】高齢透析患者の場合、重炭酸透析液に含まれる酢酸が血中に入ること、末梢血管拡張と心機能抑制が透析中の血圧低下の原因の 1 つと報告されている。また、末梢血中の単核球からサイトカイン産生を刺激することが長期間慢性的に繰り返されることで、MIA 症候群の進展などに関与する可能性も示唆されている。

【目的】今回、透析困難症を呈する高齢患者及び、低栄養状態の患者に対して AFBF を使用したので報告する。

【方法】外来維持透析患者 2 名を対象とした。循環動態の指標として収縮期血圧と拡張期血圧を比較した。血液検査(Alb,P, Na,BUN,Hb, CRP,HCO₃⁻)と DW,GNRI,を比較した。

【結果】AFBF 使用により血圧低下頻度、気分不快等の訴えが減少傾向にあった。透析条件を変更後、HCO₃⁻・Alb 及び GNRI の上昇を認めた。また、CRP の減少傾向も見られた。

【考察】AFBF を使用することで、血圧低下の軽減、Alb・GNRI の上昇が見られたことから、透析困難症及び低栄養患者に対して有効と考えられた。しかし、Na,HCO₃⁻ の上昇を認めたことから、適正補充液量の検討が必要と考えられた。

【結語】透析困難症及び低栄養状態の透析患者に AFBF を用いることにより、安定した透析を施行する事が出来るのではないかと考えられる。